

## 令和7年度 第2回東京都商品等安全対策協議会 議事要旨

1. 日 時：令和8年3月3日（火） 午後1時30分から午後2時59分まで
2. 場 所：東京都庁第一本庁舎42階 特別会議室D
3. 出席者：仲綾子 委員（会長）

北村光司 委員（会長代理）

田中悠紀 委員

仲野禎孝 委員

野田夜賜重 委員

米山眞梨子 委員

井嶋道雄 特別委員代理

河合恒 特別委員

小松真一 特別委員

中谷竜 特別委員

村上高久 特別委員

### 4. 次第

「エスカレーター利用者のための安全対策」についての検討  
その他

### 5. 主な発言

<資料1（海外におけるエスカレーターの状況等）に関する意見、質疑応答>

- 海外では、立ち止まる時はこちら側とルール付けしているように見受けられた。海外は、片側を歩行することを容認しているのか。
- 今回調査した中では、公共交通の運営事業者等が立ち止まる側を示している例はあったが、歩行禁止を明示しているものは確認できなかった。なお、「走らないこと」を示しているところは複数あった。

<資料2（エスカレーターの利用に関する実地調査結果）に関する意見、質疑応答>

- 調査対象に商業施設とあるが、もう少し具体的に教えてもらえないか。
- 商業施設は、ショッピングセンター、百貨店等で調査を実施した。
  
- 乗り口でふらついた、乗り口で立ち止まったなどが多いとあるが、これは運転方向が「上り」の時に多いか？「下り」の時に多いか？
- 運転方向（上り、下り）別の発生場所などの集計は行っていない。表12に、運転方向別のつまずき等の発生率は掲載しているが、上りと下りで大きな差があるとまでは言えないと考える。

- 一般の観測者数と比べて高齢者の観測者数が少ないという印象を持った。東京は高齢化率が低いとはいえ、観測割合が約7%と少ない。年齢区分が「見た目による同定」であるため、実際より若く見積もられている高齢者が多い可能性があると考えられるがどうか。
- ご指摘のとおり、65歳以上かどうかは外見から判断しているため、比較的高齢に見える方を高齢者としてカウントしている可能性がある。本人への年齢確認ができないことから、本点については調査手法上やむを得ない点としてご理解いただきたい。

<資料3（現状、課題、今後の対応等）に関する意見、質疑応答>

- 方策案の対象が高齢者、酩酊者に限定されているが、実地調査では、未就学児のつまずき等の発生率が1.1%と、他年代より高かった。未就学児を対象に入れていないのはなぜか。
- 第1回協議会で示した年齢別の東京消防庁管内のエスカレーター関連救急搬送者数では、0～4歳は全体の約1.4%と少なかったため、未就学児は対象に含めなかった。
- 救急搬送者数の割合が少ないのは分かるが、実地調査では5歳以下も対象としているため、「未就学児は救急搬送者数の割合が少ないため対象に入れていない」や「未就学児は救急搬送者数の割合は少ないが、つまずき等が多いので注意が必要」などの補足があるといいと思う。
  
- 乗り込み時にふらつき等が多い点について、原因として高齢者の身体的特徴を挙げているが、乗る時と降りる時は同じ動作であり、なぜ差が生まれるのか。
- 乗る前の立ち止まりを観測対象としていて、つまずき等の発生数として計上している。このため、降り口と比べて乗り口の発生数が多くなった可能性がある。
- 乗り口まで手すりベルトの長さが短いと、動いているところ（踏段）に乗らなければならないので、乗る時は足元に集中してしまい、手すりベルトをつかんでいない可能性があると思う。不安定な状態で足をのせて、足だけ引っ張られるので、バランスを崩しやすいのではないか。一方、降りる時は、手すりベルトをつかんでいる状態なので、手すりベルトを掴んだままの状態而降りてから手を放すので安定して降りることができるのではないか。
- 店舗で見ていると、乗る前に手すりベルトを持ってしまう人が多い。手すりベルトに引っ張られて足がついていけない人がいる。
  
- 救急事故の受傷原因別のグラフに「バランスを崩す、ふらつく等」とある。「バランスを崩す」とは、何なのかという疑問がある。
- 東京消防庁から提供されたデータに「バランスを崩す」などの分類があったものではない。提供を受けた事例を分析し、事務局側で整理した分類である。事例の詳細に、

「バランスを崩した」や「ふらついた」などの記載があった場合に、「バランスを崩す、ふらつく等」へ分類したものである。

→ 重心の位置が支持基底面を超えた場合、静止できない。支持基底面とは、立っている時では、床に接触した面で囲まれた範囲であり、足を開いていれば大きい、足を閉じた状態では狭い。

バランスを崩すとは、自分の重心を、自分の支持基底面の中に入れておけない状態。エスカレーターの場合、足を着く床面（踏段）が動いている。支持基底面が動いているため、自分の体の重心がコントロールできる位置にあるかをきちんと認識できているか否かで、バランスを崩すリスクが高まる。

動いている床面が速ければ、その分、自分の重心をそれだけ早く動かさなければならぬため、身体機能や平衡感覚が低下した高齢の方だとリスクが上がる。

乗る時は、動いている床面に足を着く。降りる時は、静止している床面に足を着く。乗る時は動いている方に足を浮かして着くため、降りる時より難しいと思われる。

- 高齢者と酩酊者は分析上並列になっているが、両者を一緒にして注意喚起を行うことは、高齢者が酩酊者と同じだと受け取られる恐れがあり、抵抗があると感じる。
- 駅では、エスカレーターの踏段の水平枚数が多く、水平になっている部分が長い。一方、一般的なスーパーでは踏段の水平枚数は少ない。踏段の水平枚数の差が、事故等の発生に影響しているかもしれない。アンケートにそのような差もできれば入れていただければと思う。
- 運転速度が遅くなると、歩く方が増え、それを要因とした事故が起こる可能性も否定できないかと思う。調査にあたってはそのような視点も入れていただければと思う。

<その他>

- エスカレーターに限らず高齢者、酩酊者の転倒事故は多いため、東京消防庁では注意喚起を行っている。また、スマホを見ながら歩いていてぶつかるなど、利用時に見ながらという事故も多いので、その点もホームページ等を通じて注意喚起している。